

## 医学系研究に関する情報の公開について

(21-115)

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構... 大阪労災病院
研究課題名*	長眼軸眼に対する硝子体手術においてポート作成部を後極側にすることの有用性
所属科*	眼科
研究責任者*	岩間 康哲、松本 英里、池田 俊英、恵美 和幸
研究実施期間	開始 西暦 2020年 1月 1日 ~ 終了 西暦 2020年 12月 31日 (予定)
対象疾患 (予定症例数)	当院で硝子体手術を行う症例のうち、31mm以上の眼軸長である症例 (約10症例程度)
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 2018年 10月 22日 ~ 至 西暦 2020年 12月 31日
研究概要*	31mmを超える長眼軸眼における硝子体手術においてポートから後極部までの距離が長いため、一般的な硝子体鑷子では長さが不足し、内境界膜(ILM)を扱う手技に難渋する。そのため術中にポートを通常より後極側に移動させるなどの工夫がなされるが、ポートから後極部までの距離をどの程度短縮できているかを客観的に評価した報告はない。本研究では、長眼軸眼でポート位置を後極側に移動した場合の中心窩での手術手技における有用性について前眼部三次元光干渉断層計 CASIA2(TOMEY)を用いて評価した。
倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	1. 個人情報の保護 本研究で得られた情報は、個人を識別することができる情報を除き、その方と関わりのない匿名化された番号を付ける。匿名化された番号との対応表は当部署内で厳重に保管する。  2. データの公表 本研究で得られたデータを発表する際には対応表は提供せ

別紙第 2 号様式

	<p>ず、連結可能匿名化されたデータのみを提供する。学会や論文等で研究成果を発表する場合も、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行わない。</p> <p>3. 患者さまに生じる危険</p> <p>本研究では基本的に後ろ向きにデータを収集するため、診療自体に影響が出ることはない。新規患者に関しては、前眼部光干渉断層計 SS-2000 (TOMEY 社) を用いて前眼部の術前後の形状変化を測定する。当検査は乱視の評価および術後の高次視機能の評価に広く用いられる検査である。1 分程度の非侵襲的な検査であり、診療自体に影響が出ることはなくまた通常の定期外来で行うことから、患者さまに負担・危険が生じることはないと考えられる。</p>
<p>研究の問い合わせ先 *</p>	<p>独立行政法人労働者健康福祉機構 大阪労災病院 眼科 岩間 康哲 Email: iwama.opthal@gmail.com</p>

\* 記入必須項目